



大樹のこころ

自立の日

本校には家康学習という学びがあります。徳川家康公について、1年生から6年生までカリキュラムを組み系統的に学んでいきます。伝統ある本校の教育です。この家康公の精神を生かし、子供たちが自らの生活を高め、振り返る場として「自立の日」というものがあります。毎月23日を自立の日として、放送による全校集会が行われます。

本日、その自立の日が実施されました(23日が勤労感謝の日で祝日のため)。司会進行は6年生の代表委員が行います。今日は1年生の子と4年生の子が、この1か月間の自分の生活の振り返りを発表しました。本校の目指す子供像は、家康公の生き方になぞらえ「学ぶ子」「優しい子」「我慢する子」となっています。振り返りは「今月、自分が頑張ったことは学ぶ子で、手を挙げて授業に参加できました」「自分がちょっとできなかったのは優しい子で、一人にいる子に声をかけてあげることができませんでした」など、自分自身を見つめ直していきます。振り返りを発表する子の話を聞いていると「目標をもって生活している」ということを感じてしまいます。会の最後には司会を務める代表委員の子も、自分の振り返りを発表し、同時にこれから頑張っていきたいことを宣言していききました。

放送での集会が終わると、各学級で家康公遺訓の唱和が始まります。ほとんどの学級で、遺訓を誦んじることができています(すでに1年生で暗唱できている子も)。本校を卒業した保護者で「今でも遺訓を唱和できる」と言われる方もおり、本校の家康学習の伝統のすごさがわかります。遺訓唱和に続いて、一人一人が自分の生活の振り返りを行っていきます。タブレット端末に「学ぶ子」「優しい子」「我慢する子」について記入ができるシートが配付され、自分自身の思いを綴っていきます。このように定期的に自分を見つめ直すことで、子供たちは一歩一歩確実に、自分の成長を感じることができます。振り返りだけでなく、「これから頑張りたいこと」も同時に記入していくので、今後の目標が明確になります。

健やかな大樹寺っ子は、このような自立の日によっても育まれているのです。

いよいよ来週の12月2日(土)に開校150周年記念式典が行われます。本来ならば、保護者の皆様もお招きし、盛大にお祝いしたいところです。しかし、体育館の収容人数の関係や運動場が仮設校舎の工事で手狭になっている状態でお招きすることができません。誠に申し訳なく思っています。式典の様子は、後日配付予定の「150周年記念DVD」の映像でご確認いただければと思います。

